

久間がゆく

No.4

株式会社フコク

～長年つちかった不織布のノウハウ生かし
自動車用吸音材製造で日本屈指～



【写真左上】できた製品を検品する社員【写真左下】中山大藤交差点にある本社工場【写真右上】不織布の製造ライン。大川工場を含めて5つの製造ラインを持つ【写真右下】素材に使うポリエステル。15種類以上もあるという

皆さん、こんにちは。企業支援相談員の久間です。今回紹介する企業は、株式会社フコクです。

この会社の主な事業内容は、自動車や住宅用の吸音断熱材、介護や日常で使う寝具の製造や販売で、本社工場が中山にあり、大川市にも工場を構えています。

これらの製品に共通するのは「不織布」。不織布とは、文字通り繊維を織らずにシート状にしたもので、この会社では主にポリエステルという化学繊維を使っています。

【事業者情報】

- 本社所在地＝中山 254
☎ 62・4188
- 資本金＝4000万円
- 売上高＝約10億円
(H26年度)
- 代表者＝古賀新一
- 従業員＝61人

この会社の主力商品は自動車用の吸音材です。これは、車のドアや床などに使われ、人が乗る車内に走行中の音やエンジン音、エンジンルームからの熱などを入れないようにするためのもの。なんとこの会社の吸音材は、中国地方から西にある自動車生産工場ほとんどに納入しているほどのシェアがあるのです。古賀新一社長は、「生産能力では西日本で1番。全国でも折りだどと自負しています」と語ります。

昭和7(1932)年創業のこの会社は、古賀製綿有限会社が前身。寝具を中心とした商品を長く製造してきましたが、平成6年に吸音材の開発を始めます。「九州に自動車の生産工場が建設され、地域の企業に声が掛かりました。寝具製造のノウハウを生かせると思い、挑戦することにしました」と当時を振り返ります。最初は求められる製品を

納入することが難しかったそうですが、思い切った設備投資や九州大学との共同研究を行った結果、品質向上に成功。自動車メーカーからの信頼を得ることができたといいます。

古賀社長は、「吸音材製造の技術と経験から、音に関する事業を育てて製品の付加価値を高め、創業90年には東南アジアなど海外へ売り込みました。そのため、技術を持つUターンや若くて意欲的な人を採用できたら」と今後の展望を熱く語りました。

～久間のひとこと～

3年前の水害の際は大きな被害を受けたものの、関連企業からの支援などもあり、早期復旧ができたとのこと。水害を経て、会社がひとつになり、より強くなれたという社長の言葉が印象的でした。

【問】市商工振興課企業誘致・ベンチャー支援係 ☎ 77・8762